

## JSCA 指導者検定会 千葉県小見川会場 報告書

報告者：平井剛（チーフ IT）

教養課程：2017 年 11 月 7 日～8 日 千葉県立水郷小見川少年自然の家

基礎課程：2017 年 11 月 9 日～10 日 千葉県立水郷小見川少年自然の家、黒部川

担当 IT：平井剛（サンデープランニングアウトドアスクール）

：大野秀史（シーカヤックうみうし）

：中村昭彦（一滴 Paddle & Mountain Guide）

：小作幸次（ウエイブグライド）

主管：一滴 Paddle & Mountain Guide

研修：紺野祐樹（アースクエスト）/イントラ 2

：石川義治（Ucdi）/IT

：小作幸次（ウエイブグライド）/IT

：松澤直紀（かのあ）/イントラ 1

：石川翔太（Ucdi）/イントラ 1

受験者数：教養課程 9 名、基礎課程 10 名

（オープンカヌー/5 名、シーカヤック/3 名、リバーカヤック/2 名）

合格者数：教養課程 9 名、基礎課程 7 名

受験者全員が何らかの形でプロ活動をしている現役のインストラクターやガイドの参加でした。

### 【教養課程】

3 艇種の受験者が異なったフィールドで活動しているため、講義内容がフィールドに片寄らないように気を配りました。

単調にならないように、一方通行にならないように、どの講義も IT の個性的で、重要なポイントは押さえている、動きのある飽きない講義でした。

全員が現役のインストラクターやガイドの方でしたので興味深く、集中し、理解して講義を聞いてくれました。結果、どの教科も高い点数で問題ありませんでした。

### 【基礎課程】

#### ・漕艇技術

受験生 10 名 3 艇種は時間がかかると予想し、極力時間短縮に努めました

結果、大きなロスも無く終了できました。

横風が強く、受験者に負担があったと思います、検定時のフィールド設定は反省点です。

IT が多くいたこともあり、3 艇種ごとに担当 IT を決め、フィードバックができたことは、受験生にとってより良い時間になったと思います。

#### ・指導技術

初級者の VTR を見ながら、現状把握、原因究明、目標設定を課題に進行しました。現役のインストラクターやガイドでもある今回の受験生のコミュニケーション能力は高かったです。カヤックとカヌーの 2 艇種のグループに分かれ、各 IT が 2 名ずつ担当しました。技術分析はできるが、よりシンプルに分かりやすく伝えるという点が多くの方の課題だったようです。

#### 【その他】

10 名という大人数に加え、カヌー、シーカヤック、リバーカヤックという全カテゴリーの受験で運営、進行に苦労しました。

#### 【主管】

10 名の多人数と会場との打ち合わせややり取りなど誰よりも忙しく貢献していただきました。IT と主管の両立は人数や会場により負担が多く、難しいと感じました。

#### 『主管として-中村（一滴 Paddle & Mountain Guide）』

JSCA としては初めて利用する千葉県小見川の『水郷小見川少年自然の家』での開催でした。目の前に黒部川という静水があり、研修会場もシッカリとしています。少年自然の家という名前の通り、子供たちを対象にしている施設なので、アルコールを飲むことはできません。よって、今回は懇親会は開催されませんでしたし、就寝や起床の時間も決まっておりました。最初はそれに対して抵抗もありましたが、規則正しい生活の中で、逆に検定会にしっかりと向き合うことができ、今まで以上に真剣に受験生の方々が取り組んでいるように見受けられました。

検定会が今の仕組みになってから、検定会の中で直前の技術指導（講習会）は行われなくなりました。できるだけ前もってガイドラインに目を通し、受験科目をチェックし、必要であれば事前講習会の受講を進めています。その上で検定会に挑んでいただけると、より一層意味あるものになると改めて感じました。決して安い検定代ではありません。我々担当 IT や主管も真剣に対応しております。その為にも、告知の仕方や記載方法で検定会の事前準備やイメージができるような対策を考える必要もあると思いました。

**【IT 研修】**

紺野さん（IT 申請中）

教養課程の講義参加し、時に発言していただき、漕艇技術では点数をつけてもらいました。受験生との接し方、言動、技術観察分析など IT の資質は十分に満たしていると思われます。1 日も早い IT としての活動を期待しています。